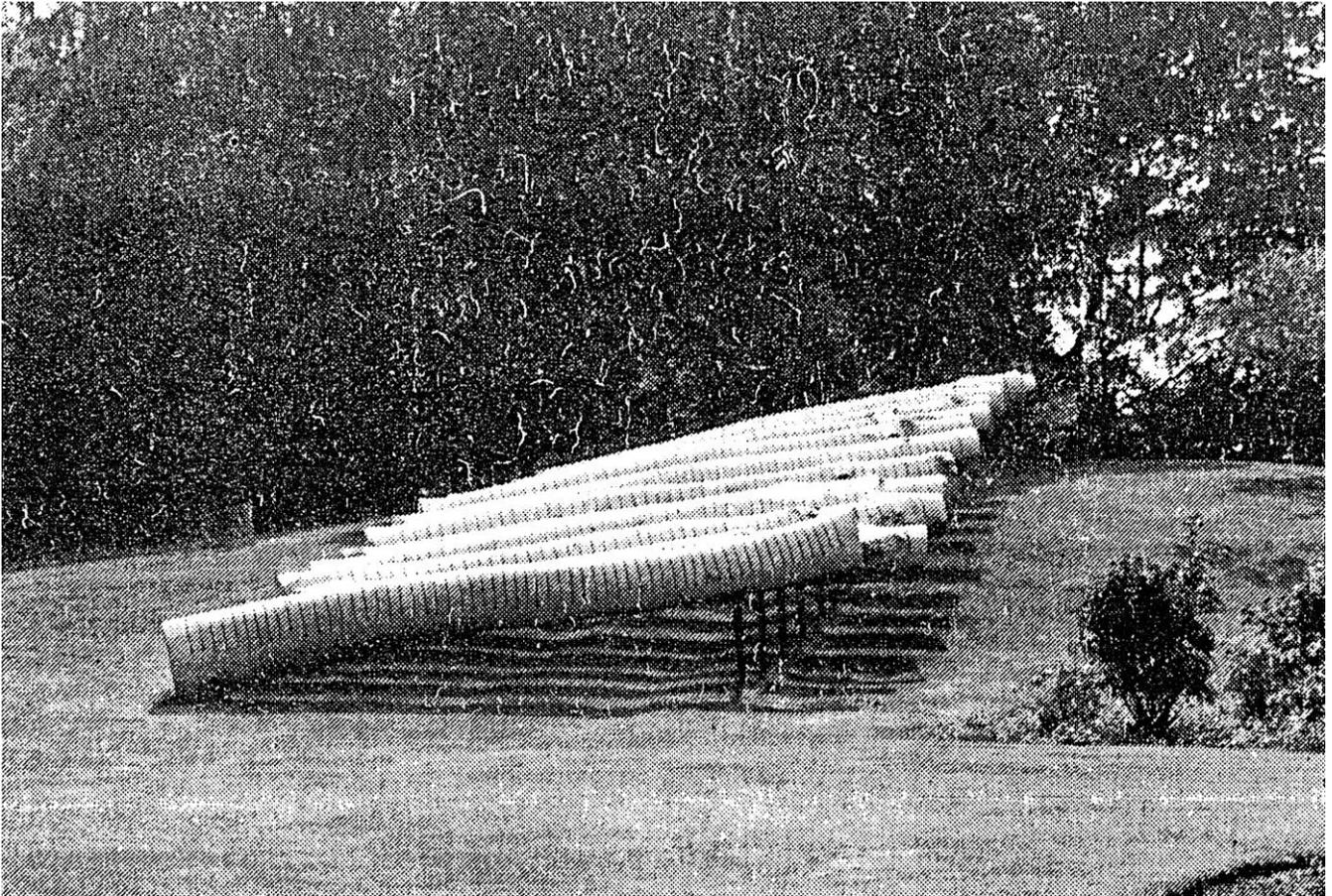




彫刻展は芸術と自然の組み合わせを強調しています

ヴァーヘニンゲンは「Beelden op de Beyg」を6回します。



日本の角永和夫によるインスタレーション

写真・Nicole ter Maten

文・Henk Meutgeert)

公園での美術展はまだ可能ですか？ Sonsbeek '93の作曲家である Valerie Smith は、最新のアーティストの態度を考えると、「ほとんど」と言います。彼女は主に彼らと一緒にアーネムの街に行きました。はい、ヴァーヘニンゲンで6回目の彫刻展を開催した Images on the Mountain Foundation は言います。抑圧に対して、WVC は Wageningen 計画にほとんど見ていませんでした。したがって、他の資金源がプロジェクトの資金調達に使用されました。財団は、1950年代初頭に設立された樹木園である「美術館」ベルモンテを展示会場とし

て再び選びました。展示会はすぐに75周年を祝います 農業大学の記念日。しかし今回は、財団は道路を選択していません。公園の装飾に芸術作品を配置することです。これは、展覧会が与えられたタイトルからすでに明らかです：「Muséedes Beaux Arts、Muséedes Beaux Arbres」。だからここにもコンセプトがあります。芸術と自然は平等な立場にあり、参加した17人のアーティストの大多数は、これを素材の選択という点では環境に合った作品に変換していますが、内容に関してもあちこちで翻訳しています。だからたくさんの木。

伝統

この根底にある考えにもかかわらず、6 番目の Images on the Mountain は、それでも伝統的な彫刻展になり、前の版のソンスベーク展と結びついています。一方、公園での展示は時代遅れのアイデアではなく、誰を招待するかによって異なります。ヴァーヘニンゲンがアーネムの新進気鋭の若い警備員より少し古い世代でそれを探しているのは驚くべきことです。Sonsbeek 86 に目立つ存在である Guiseppe Penone でさえ、今や再びヴァーヘニンゲンに現れています。

作品に天然素材と形を組み合わせたペノーネは、ヴァーヘニンゲンに置いた彫刻の木の枝の形に沿って、狭い道の脇に多くのブロンズストランドを配置しました。彼は再び自然と文化の組み合わせで素晴らしいことを証明し、この展示会で最も活躍する人物です。彼は、切り株を切り株に巨大なアイスランプレートで飾るだけのバルドウインロンベルグよりもはるかに巧妙に働いています。

日本の角永和夫の作品も、15 本の剥ぎ取られたポプラを一行に並べ、常に同じ距離で途中まで挽いたという特別な品質を持っています。これにより、さまざまな側面からエキサイティングな外観を提供し、気象条件によって変化するリズムカルな全体が作成されます。彼の同胞である土屋公雄は、人工の枯れた焼けた森のように、南北軸の地面に垂直に多数のねじれた H ビームを配置しました。

コテージ

長い間木を扱ってきたマリヌス・ポエゼムは、木の名前が刻まれた上から磨かれた、切り落とされた木の円盤のような 8 枚の花崗岩の円盤を作りました。少し先の茂みに隠され、たくさんのコピスの木の山の隣に、アンとパトリック・ポワリエ（梨の木、この展示会の素敵な名前）が作った香りのよい巨大な木造の家が立っています。低いドアを這い回って、いくつかのレンズを通して森の断片を見ることができます。

そして真ん中のガラスの下には、カップルの頭脳があります。その形は、「夢と記憶の部屋」と名付けられた小屋の形に反映されています。その頭脳の追加は家にいくぶん明白な意味を与えます、彼らはおそらく省略されたかもしれません。

印象的ですが、実質的にまばらなのは、Nils Udo

による作品/青い花の谷です。彼は、山々に囲まれた谷の形をした台座を使って、かなりの直径の丸い土地を「育てた」。「山を越えて」階段を経由して到達できるその谷では、青い花が咲き乱れます。クレラーミュラー美術館のジャンデュビュッフエによる、歩くこともできる大きな白黒の「庭」を非常に彷彿とさせます。樹木園がこの作品に恒久的な地位を与えることを決定した理由は謎であるか、ニルス・ウドの作品がより魅力的であると考えられているためであるに違いありません。

ヴァーヘニンゲンで展示されている最も概念的な作品は、カッセルの最後から 2 番目のドクメンタにギロチンの印象的な列の後ろにいる男であるランハミルトンフィンレイの作品です。スコットランドで育った芸術家は、パリ近郊のヴァンセンヌへの道を示すシンプルな木製の看板を、ワーゲニングセベルクがラインに向かって急降下する場所の近くの丘の上に置きました。ディドロがかつて投獄され、ルソーが彼を訪ねた場所。

伝統

6 番目の Beelden op de Berg は、芸術と樹木を見ることの比較を求めています。「芸術を見ると木を見ることに影響し、逆もまた同様です。木の建築、その形、葉の質感は、芸術作品のように体験することができます。後者は、山の上のこれらの画像の背後にある根底にあるアイデアのあまりにも強制的な検索であり、この場所にアートを配置するためのあまりにも強制的な正当化であるように私には思えます。この態度は、近年女性の彫刻庭園に対してなされたすべての批判の後に生じたのかもしれませんが。アーティストや素材の選択がやや多様であれば、展覧会はより面白くなります。